

## 平成26年新年名刺交換会

平成26年新年名刺交換会が、平成26年1月15日（水）午後5時から生田神社会館に於いて兵庫県知事井戸敏三氏、同副知事吉本知之氏をはじめ兵庫県・神戸市等関係行政機関の幹部、関係団体代表等の来賓をお迎えし、総勢141人の出席の下、盛大に開催されました。

開会に先立ち、まず、生田神社の巫女によるお神楽・豊栄の舞を奉納して参会者の繁栄を祈念し、平井会長挨拶、井戸知事及び山口顧問（兵庫県議会議員）挨拶、来賓紹介、県政功労を受賞された西村相談役への受賞祝い金の贈呈、新入会員・賛助会員紹介、高田顧問（元神戸市議会議員）の発声による乾杯を次第とする名刺交換会が、和やかな雰囲気の中で進められ出席者の交流を図りました。



お神楽・豊栄の舞



平井会長挨拶

### [ 平井会長挨拶（要旨） ]

皆様、明けましておめでとうございます。昨年の終わり頃から国、県や市町から沢山の仕事が発注され本当に有り難い新年を迎えさせていただきました。一方、懸念されていましたが労働者の減少により折角仕事を発注していただいても入札に参加できない、或いは不調になるような形が続きました。今年の3月くらいまではこのような状況が続くのではないかと懸念しておりますが、是非4月以降も同じような形でご発注いただければと思います。

パプルの後、建築関係は体力が弱ってきて、新入社員を採用することが少なくなってきました。そのため中堅の技術・技能者が少なくなり、特に実務に携わる電気さんが高齢化してまいりまして、5年、10年しますと大変な状況になるのではないかと懸念しております。適正な価格で、適正な工期をとって適正な利潤ができるような形で継続、平準化して発注いただければ、会員会社も安心して新しい人を雇い入れ育てていくことができるのではないかと考えています。

分離発注について、分離発注ではなく単独発注という言い方をされる方がいらっしゃいます。分離発注というと何かゼネコンさんの仕事を分離して貰うというふうに聞こえますが、単独発注という言いの方があまり抵抗感が無く、良い言い方もあるものだと感じました。電業協会会員への単独発注を今後ともよろしく願いいたします。

人の問題については、協会としても若年層を育成するため、毎年夏を中心に工業高校生のインターンシップを受け入れています。本当に入職していただくと我々としてもやりがいがあります。また協会でも1級電気工事施工管理技術受験対策講習会等も行っており、どんどん若い技術者を育てていく方向に舵を切っていかなければと思っています。それと各社には技術を持った元気な定年世代があり、今後いかに定年後も活躍していただくか、近々の課題であります。この世代を上手に活用しながら若い世代が育ってくれるまで頑張っていかなければならないと思っております。

昨年と今年は状況が違っており、景気の方は拡大基調にあると思われれます。我々協会側におきましても発注者のご期待に添えるよう体制を整えながら、しっかりした仕事をしていかなければならないと新年の初めに当たり念じている次第であります。



井戸知事挨拶



会場風景

### 井戸知事挨拶要旨

新年あけましておめでとうございます。今年は生田神社を含めて参拝者が非常に増えたと聞いておりまして、春から縁起が良いということだと存じます。現実に建物の建築着工も増えてきています。大きな建物、マンションなどは駆け込みで整備するというのではなく、土地手当が出来て状況をみて順次計画的に整備されているということであろうかと思えます。

本県などの施設整備を考えますと、一番急いでおりますのが耐震補強であり、それが出来ないものは建替えるという基本姿勢で臨んでいます。ただ設備が結構傷んでいるものがあり、これらをどう進めていくかが課題であり、今回もかなりの規模の補正を検討しておりまして、補正規模は、昨年ほどではありませんが、相当な規模になると思えます。

4月に消費税が上がればどんな影響が出てくるか、よく見えないところがありますが、個人消費が落ち込むのは間違いのないと思います。その落ち込みがどの程度の幅で取り返されてくるか、大方の方は秋には戻って成長軌道を歩むと見ていますが、世界経済の成長率予測では、日本は消費税の影響で世界平均を下回ることになっています。しかしマイナスではありません。そういう意味で、今年はいずれにしても楽しみな年に是非していきたいと考えております。

公共支出については、補正予算と当初予算を合わせて7兆円が確保されています。前年は補正と当初で7.7兆円でしたので、7000億円ほど減少していますが、一昨年、その前の年は5兆円ですので2兆円上乗せで確保されていると考えれば、公共支出は相当な牽引力になってくれるのではないかと考えています。県としても当初予算編成において、景気対策のための公共支出の規模を十分検討していきたいと考えております。電業協会の皆さんは電気設備ですから、建物が沢山建ってこない潤わないということが基本だと思いますがマンションなどの整備は結構いろんなところに出てきており、東京などでは一部バブリーではないかとの声もあり、神戸兵庫もそのようになって欲しいと私自身願っておりますが、そこまでいくかはともかく耐震化や設備の更新などを県も率先して行いながら、是非対応を図らせていただきたいと思います。

今年も電業協会の皆様方にとりまして素晴らしい年でありますように、そしてご健勝でご活躍なされますことを心から祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

### 主な行政関係出席者(敬称略)

井戸敏三(兵庫県知事)、吉本知之(兵庫県副知事)、山口信行(兵庫県議会議員・協会顧問)、高田巖(元神戸市会議員・協会顧問)、富岡誠司(県理事)、大町勝(県まちづくり部長)、古川直行(県県土企画局長)、藤原一(県住宅建築局長)、森川格(県環境管理局长)、土居康成(県企業庁次長)、沖正彦(神戸市都市計画総局設備担当部長)、中島理章(兵庫労働局労働基準部長)、黒谷努(近畿地方整備局兵庫国道事務所長)、川端宏幸(兵庫県住宅供給公社理事長)